

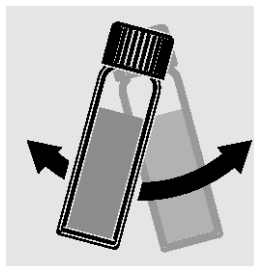
COD LR

手法番号

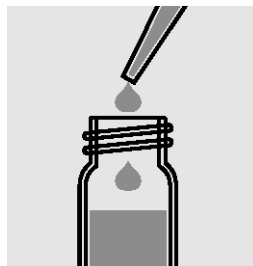
7309

WTW モデル番号	COD1 TC (LR)
分類:	KT (反応セル試験)
セル:	16 mm
測定範囲:	3~150 mg/l COD

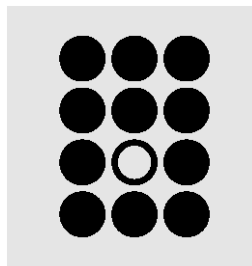
注: お使いの光度計による試験を利用する前に、試薬ブランク値を測定してください。



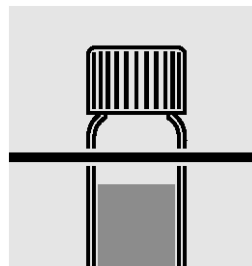
1. 反応セルを振とうして、沈殿物を懸濁させてください。



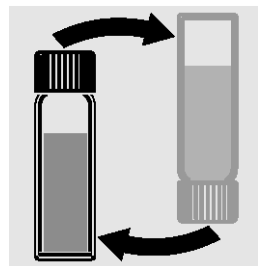
2. ピペットで 2.0ml の試料をセルに取り、ねじぶたでしっかり閉じてよく攪拌します。
注意、セルは高温になります。



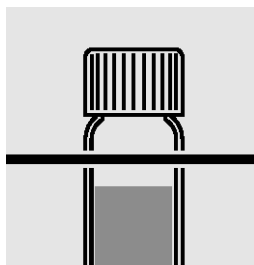
3. リアクターを 148°C に設定して、セルを 2 時間加熱します。



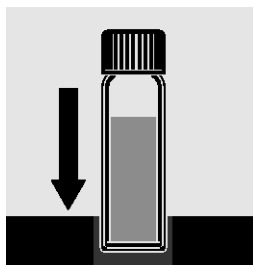
4. リアクターからセルを出し、セルラックに置いて温度を下げます。



5. 約 10 分の冷却時間をおいてから、セルを振とうします。



6. セルをセルラックに戻し、温度が室温まで下がるのを待ちます。



7. セルを光度計セルシャフトに挿入し、測定を開始してください。

注:

- 各試験パッケージを開始する都度、直前に新しい試薬のブランク値(試料の代わりに脱イオン水)を測定することを推奨します。
- 試料の塩化物成分は、1000mg/l を超えてはいけません。
- 懸濁物を含む試料は、分散剤で均質化してください。
- 光度測定のため、セルをリアクターに入れる前には、セルの外側に一切の汚染(指紋や水滴など)がないようにします。必要な場合は、乾いた布でセルを拭いてください。
- セルを光度計のセルシャフトに挿入する前に、十分な時間(少なくとも 45 分間)をおいて、セルの温度が下がるようにしてください。セルは反応後長い時間安定を保つので、一晩おいてから測定することも可能です。
- 温度が下がった後のセルは、反応中に生成された固体物が懸濁しないように、測定を実施するまで揺らさないようにします。懸濁物は光度測定の影響となります。

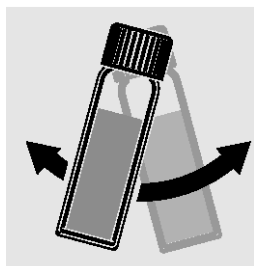
COD MR

手法番号

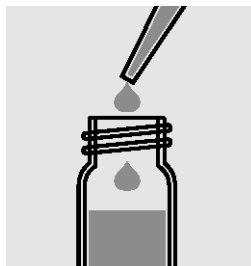
7310

WTW モデル番号	COD2 TC (MR)
分類:	KT (反応セル試験)
セル:	16 mm
測定範囲:	20~1500 mg/l COD

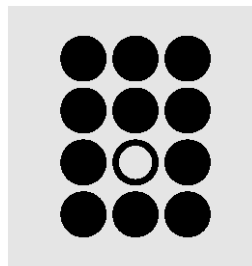
注: お使いの光度計による試験を利用する前に、試薬ブランク値を測定してください。



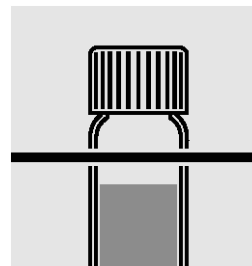
1. 反応セルを振とうして、沈殿物を懸濁させてください。



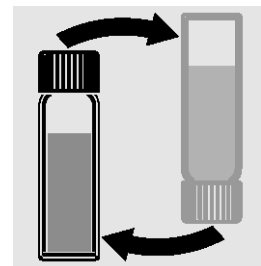
2. ピペットで 2.0ml の試料をセルに取り、ねじぶたでしっかり閉じてよく攪拌します。
注意、セルは高温になります。



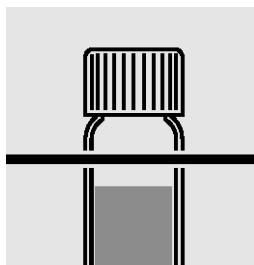
3. リアクターを 148°C に設定して、セルを 2 時間加熱します。



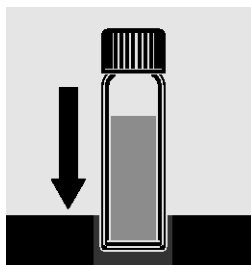
4. リアクターからセルを出し、セルラックに置いて温度を下げます。



5. 約 10 分の冷却時間をおいてから、セルを振とうします。



6. セルをセルラックに戻し、温度が室温まで下がるのを待ちます。



7. セルを光度計セルシャフトに挿入し、測定を開始してください。

注:

- 各試験パッケージを開始する都度、直前に新しい試薬のブランク値(試料の代わりに脱イオン水)を測定することを推奨します。
- 試料の塩化物成分は、1000mg/l を超えてはいけません。
- 懸濁物を含む試料は、分散剤で均質化してください。
- 光度測定のため、セルをリアクターに入れる前には、セルの外側に一切の汚染(指紋や水滴など)がないようにします。必要な場合は、乾いた布でセルを拭いてください。
- セルを光度計のセルシャフトに挿入する前に、十分な時間(少なくとも 45 分間)をおいて、セルの温度が下がるようにしてください。セルは反応後長い時間安定を保つので、一晩おいてから測定することも可能です。
- 温度が下がった後のセルは、反応中に生成された固体物が懸濁しないように、測定を実施するまで揺らさないようにします。懸濁物は光度測定の妨げとなります。

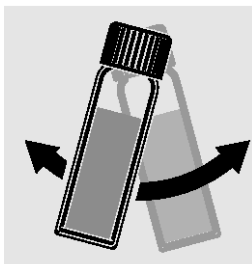
COD HR

手法番号

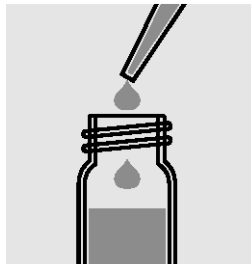
7311

WTW モデル番号	COD3 TC (HR)
分類:	KT (反応セル試験)
セル:	16 mm
測定範囲:	200~15000 mg/l COD

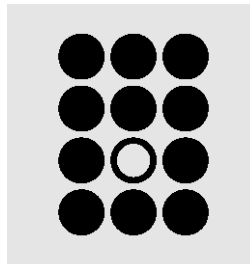
注: お使いの光度計による試験を利用する前に、試薬ブランク値を測定してください。



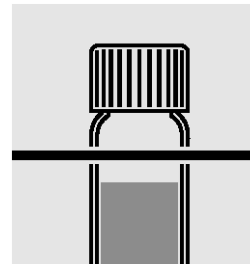
1. 反応セルを振とうして、沈殿物を懸濁させてください。



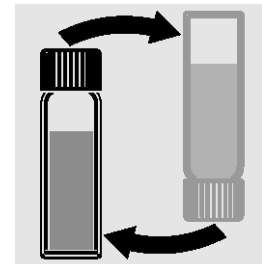
2. ピペットで 0.2 ml の試料をセルに取り、ねじぶたでしっかり閉じてよく攪拌します。
注意、セルは高温になります。



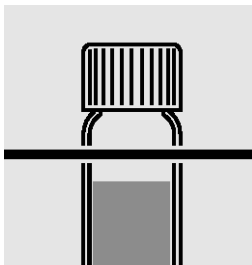
3. リアクターを 148°C に設定して、セルを 2 時間加熱します。



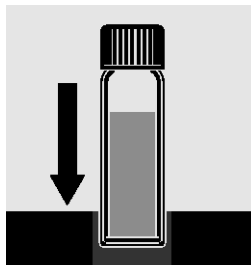
4. リアクターからセルを出し、セルラックに置いて温度を下げます。



5. 約 10 分の冷却時間をおいてから、セルを振とうします。



6. セルをセルラックに戻し、温度が室温まで下がるのを待ちます。



7. セルを光度計セルシャフトに挿入し、測定を開始してください。

注:

- 各試験パッケージを開始する都度、直前に新しい試薬のブランク値(試料の代わりに脱イオン水)を測定することを推奨します。
- 試料の塩化物成分は、10,000 mg/l を超えてはいけません。
- 懸濁物を含む試料は、分散剤で均質化してください。
- 光度測定のため、セルをリアクターに入れる前には、セルの外側に一切の汚染(指紋や水滴など)がないようにします。必要な場合は、乾いた布でセルを拭いてください。
- セルを光度計のセルシャフトに挿入する前に、十分な時間(少なくとも 45 分間)をおいて、セルの温度が下がるようにしてください。セルは反応後長い時間安定を保つので、一晩おいてから測定することも可能です。
- 温度が下がった後のセルは、反応中に生成された固体物が懸濁しないように、測定を実施するまで揺らさないようにします。懸濁物は光度測定の妨げとなります。